

医薬品の安定供給と流通取引問題

—後発薬の供給不足問題を中心として—

2022年8月31日

青山学院大学名誉教授

三村 優美子

従来からの流通問題（流通取引問題の改善）

● 価格交渉をめぐる**流通取引問題**

薬価制度の枠組みの中での医薬品メーカー・卸・医療機関・薬局の価格交渉

（すべての品目の実勢価格の薬価調査⇒銘柄別加重平均値＋調整幅⇒次年度薬価改定）

社会保険制度（公的制度）の中に**市場原理を組み込んだハイブリッド方式**

中間年の薬価改定（薬価引下げ）のもとでの価格交渉と歪みの拡大が顕著

医薬品流通独特の取引慣行（総価取引、未妥結仮納入、一次売差マイナス）

* 流通ガイドラインの趣旨を踏まえた改善の努力：総価取引**除外**あり

● 医薬分業（処方と調剤の完全分離）に伴う**物流（配送）問題**

医薬分業に伴い卸の取引先（配送先）の**タイプ分化**と配送サービスの多様化

配送単位の小口化と頻繁な配送サービスの提供の必要（多頻度小口配送、緊急配送）

* 配送サービスのルール化（**流通コスト**の明示と価格交渉）が必要

* “安定供給に必要な流通コストを考慮しない値引き交渉”の改善要請

新しい流通問題の表面化と複雑化（2010年代以降）

- 医薬品タイプ分化の意味（現行制度の前提は**長期収載品**の流通取引）
 - 後発薬の推進策（低価格、品目数の急増、多くのメーカー品混在による流通負荷大）
 - 特殊な医薬品の増加（患者数限定、流通段階を含めた特殊な品質管理、患者個別対応、厳格な在庫管理や超低温管理、有効期限の短さ、納品時間の制限、高価格）
 - * 後発薬市場における激しいシェア競争（新薬と後発薬の流通特性の違い）
 - * 全体的な薬価引下げ圧力の中でメーカーも卸も体力の低下（流通取引問題の悪化）
- “供給不安問題”（欠品の多発と混乱の長期化）の表面化（2019年～）
 - 重大な理由による供給不足と出荷調整を要する品目。**医薬品サプライチェーン全体の問題**として表面化（供給不安、欠品、在庫偏在への疑念、社会的な需給調整の必要）
 - 供給リスク情報の共有、備蓄、迅速対応できるためのルール化
 - 安定確保医薬品**としての制度化（全体調整の仕組みの具体化の必要、社会的流通コストをどう負担するのか）
 - * サプライチェーン全体としての情報共有と問題解決のための仕組みづくり
 - * **医薬品の供給不足スキーム**の実効性を高める措置の必要